

# 令和6年度 学校図書館活用計画・評価シート

足立区立第五中学校 校長 秋元 聡

## 1 学校教育目標

- 基礎基本を身につけ、自ら進んで学ぶ生徒
- 心身ともに健康で、思いやりのある生徒
- お互いに協力しあい、ともに向上する生徒

## 2 現状の学校図書館の課題

- ①休み時間や放課後の生徒の利用が少ない。
- ②図書館が狭く、座席も1クラス分ないため、授業などで学習するスペースの確保が難しい。
- ③日頃から図書館に行く習慣がなく、図書館で本を借りたことがない生徒が多い。

## 3 今年度の学校図書館の重点目標

- ①学区図書館を「読書センター」としてだけでなく、「学習・情報センター」として生徒自らが主体的に疑問や課題を解決する場とする。
- ②ICTを活用した調べ学習だけでなく、積極的に図書を活用した調べ学習を行う授業を教科担当と学校司書が連携し、展開する。

## 4 今年度の重点的な取組

- ①学校図書館がより身近になるよう、読書週間等のイベントを充実させるよう工夫する。
- ②授業内で図書館を活用した学習を展開させる。
- ③生徒がより行きやすく、居やすい図書館となるよう委員会生徒の意見を活用した図書館づくりを進めていく。

## 5 教科等における年間指導計画（対象学年は○数字で記載）

教科	内容（学校図書館の図書や資料を活用して取り組む単元等）
国語	①根拠を示して説明しよう ②メディアの特徴を生かして情報を集めよう ③情報を読み取って文章を書こう
社会	①中世の日本と世界 ②日本の近代化 ③私たちと国際社会
理科	①大地の変化 ②天気とその変化 ③地球と宇宙
英語	①Think Globally, Act Locally ②Universal Design
保健体育	①健康な生活と疾病の予防 ②心身の機能の発達と心の健康
家庭科	①生活の課題と実践 ②消費生活と環境

## 実践の評価

英語科は、「まとまりのある英文・話し方」（1学年）、ALTの先生に日本の魅力を伝える、興味のあること、驚いたこと、好きな理由という視点で、館内の資料を活用して情報を集め、マッピングを行った。「Universal Design」（2学年）、選んだ項目の特長や使い方、使用場所等を館内の資料、公共図書館団体貸出の資料を活用して調べた。「世界遺産」（2学年）、館内の資料を活用して調べた。英語劇の台本作成、館内の英語の物語資料貸出（3学年）を行った。

・国語は、「観点を立てて2つの絵画を比較し、それぞれの作者の意図を探る」（2学年）、館内の資料、公共図書館団体貸出の資料を活用した。

## 6 図書館運営計画

### (1) 日常的な取り組み

- ①読書時間の確保（週5回、朝読書） ②読む本は図書館から借りる

### (2) 主な行事等の取り組み

- ① 読書週間（年3回） ②読了冊数に応じた表彰（前後期）

### (3) 図書委員会などの取り組み

- ①POPの作成 ②全校生徒の読了冊数の集計

### (4) 環境整備の取り組み

- ①蔵書点検を実施し、システム更新時に適切に対処できるようにする。  
②図書館ボランティア協力の下、季節に応じた装飾を館内外で行い、親しみやすい環境を整える。

### (5) 司書・外部との連携

- ①授業や探究学習に必要な本を取り寄せる。  
②調べ学習、授業に必要な教材や資料についての相談や情報交換を行う。

## 実践の評価

- ① 1人1冊数分間、本を読んで次の人に回す「読書回転ずし」を、6月と1月に実施した1学年は、各クラス人数分の本を各月一ヶ月間、貸出を行い、朝読書に読む本などに活用した。
- ② 読書週間は、学習・図書委員を中心に企画を実施、放課後の学習場所として利用の促進を行い、来館者数が大幅に増加した。
- ③ POP作成はできなかった。全校生徒の読了冊数の集計を行った。
- ④ 蔵書点検実施。図書館ボランティアが季節に応じた装飾を行い、親しみやすい環境が整った。
- ⑤ 国語科、英語科、総合の時間等で授業利用があり、教員と学校司書が資料について相談、公共図書館に対しても資料の相談、借入を行った。

7	学校図書館利活用に関する成果目標	達成基準	達成状況
①	全校の朝読書を継続して行い、生徒1人が年間10冊以上の本を読むようにさせる。	読了冊数記入カードの集計をもとに確認をする。	前年度比 97.4%
②	年間の学習指導内容に合わせ、図書館を活用した学習を展開する。	図書館を活用した年間の授業実施回数：年4回	図書館を活用した年間の授業実施回数：年23回
③	委員会の取り組みを中心に図書館来館生徒数を増加させる。	前年度比：30%増	前年度比 296%

## 8 学校図書館全体に関する自己評価

- ・1学年が年2回実施した「読書回転ずし」は、普段本を読まない、図書館を利用しない生徒も本に触れる良い機会になり、図書館をより身近に感じることで、利用促進につながった。
- ・昼休み、放課後に加え、休み時間に開館することで、生徒が気軽に来館し、利用が増加した。
- ・図書館のレイアウト変更を実施、座席を1クラス分確保できたことで、授業利用が可能になり、活用につながった。
- ・学習・図書委員会は、読書週間企画を実施、定期考査学習のための来館をポスターや声掛けで積極的に促し、普段来館しない学年や生徒が来館、昨年に比べて期間中、7倍近い来館者数だった。
- ・週5回の朝読書の充実、読書活動に消極的で日頃から図書館に行く習慣がない生徒のため、図書館の本を利用したPOP作り、年3回の読書週間と本の貸出を関連付けた行事の実施、授業での活用などを通して、読書の楽しさを伝えていく。